

四半期報告書

(第50期第1四半期)

自 平成25年4月1日

至 平成25年6月30日

株式会社 ク エ ス ト

(E05310)

目 次

	頁
表 紙	
第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1
第2 事業の状況	
1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
第3 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) ライツプランの内容	4
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(6) 大株主の状況	4
(7) 議決権の状況	5
2 役員の状況	5
第4 経理の状況	6
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10
2 その他	13
第二部 提出会社の保証会社等の情報	14

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月9日
【四半期会計期間】	第50期第1四半期（自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日）
【会社名】	株式会社クエスト
【英訳名】	Quest Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 和朗
【本店の所在の場所】	東京都港区芝浦一丁目12番3号
【電話番号】	03（3453）1181（代表）
【事務連絡者氏名】	取 締 役 山越 千秋
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝浦一丁目12番3号
【電話番号】	03（3453）1181（代表）
【事務連絡者氏名】	取 締 役 山越 千秋
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第49期 第1四半期連結 累計期間	第50期 第1四半期連結 累計期間	第49期
会計期間	自平成24年 4月1日 至平成24年 6月30日	自平成25年 4月1日 至平成25年 6月30日	自平成24年 4月1日 至平成25年 3月31日
売上高（千円）	1,626,776	1,622,325	6,774,169
経常利益（千円）	18,253	15,656	268,263
四半期（当期）純利益（千円）	14,964	10,714	177,303
四半期包括利益又は包括利益 （千円）	15,124	35,926	204,655
純資産額（千円）	3,480,436	3,519,360	3,638,565
総資産額（千円）	4,443,335	4,423,288	4,509,080
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（円）	2.89	2.07	33.80
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（%）	78.3	79.6	80.7

（注）1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権による金融政策、経済対策への期待感から円高修正や株高が進み、輸出企業を中心とした業績の改善が見られた一方、新興国の成長鈍化、欧州での債務問題等による景気下振れリスクなどにより、依然として先行き不透明な状況で推移致しました。

当社グループ（当社及び連結子会社）の属する情報サービス業界においては、経済産業省の「特定サービス産業動態統計調査2013年5月分確報」の情報サービス業の項によると、5月の売上高は前年同月比3.0%の増加となり3月以降3ヵ月連続しての緩やかな回復基調となっております。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの業績の概況は以下のとおりであります。

売上高については、前年同期比0.3%減の16億22百万円となりました。利益については、プロジェクト管理工数の増加等により、営業利益は前年同期比36.4%減の8百万円、経常利益は前年同期比14.2%減の15百万円、四半期純利益は前年同期比28.4%減の10百万円となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

システム開発事業については、売上高は主要顧客のIT投資凍結が大きく影響し、売上高は前年同期比5.3%減の7億79百万円となりました。セグメント利益は、請負開発案件におけるプロジェクトマネジメントの強化により不採算案件が減少し前年同期比12.6%増の80百万円となりました。

インフラサービス事業については、大手電機メーカーグループ各社や情報サービス企業へのサービス領域が拡大し、売上高は前年同期比6.2%増の7億45百万円、セグメント利益は前年同期比0.3%減の1億13百万円となりました。

その他の事業については、売上高は前年同期比4.3%減の97百万円、セグメント利益はプロジェクト管理工数の増加などにより前年同期比61.8%減の5百万円となりました。

(注) 1. 「その他」の事業には、受託計算サービス事業、データエントリー事業及び商品販売事業等を含んでおります。

2. セグメント利益につきましては、全社費用等の配分前で記載しております。

(2) 資産、負債、純資産の状況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産の残高は44億23百万円となり、前連結会計年度末に比べ85百万円減少しました。これは主に売掛金が93百万円減少したこと等によるものです。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債の残高は9億3百万円となり、前連結会計年度末に比べ33百万円増加しました。これは主に退職給付引当金が8百万円増加したこと並びに未払配当金が23百万円増加したことによるものです。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は35億19百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億19百万円減少しました。これは主に配当金の支払等で利益剰余金が1億44百万円減少したことによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間において特記すべき研究開発活動はありません。

(5) 経営戦略の現状と見通し

当社グループを取り巻く経営環境は、経営のグローバル化、クラウドコンピューティングやスマートフォン・タブレット端末等のテクノロジーの進歩により急速に変化しております。このような環境の変化を新たな成長のチャンスと捉え、以下の施策を推進し計画達成に向けて邁進しております。

(a) ビジネス構造改革と循環型成長サイクルの確立

従来の時間精算で対価をいただくビジネスに対して、顧客にソリューションを提案していくビジネスや、成果物で対価をいただくビジネス領域を拡大することによってビジネスの構造を改革していきます。

また、①顧客に「ITシステムコンサルティング」等を実施して顧客の抱える課題を洗い出し、②「ソリューション」を提供することによりコンサルティングで洗い出された課題を解決し、③導入されたシステムの保守・運用の高度化を図りシステムの効率化を追求し、④安定した中で、オフサイト、ニアショア、オフショアなどの形態でアウトソーシングを実現していく、という流れを提案・提供することで、循環型成長サイクルを確立していきます。

(b) 戦略的事業モデルの強化

①ソリューション型事業モデルの創造、強化

- ・業務基幹システムと情報系分析機能を兼ね備えた「クエストERPソリューション」として、物流・製造業向け、案件・プロジェクト損益管理機能、SAPの置き換えなどにフォーカスします。
- ・営業支援、顧客管理アプリケーションを揃えた「業務向けスマートソリューション」では、Windows8対応、OSのバージョンアップ対応、基本アプリケーションを拡充します。

②アウトソーシング受託事業の強化

- ・クエスト版クラウドデータセンターサービスとハイブリッド（常駐＋オフサイト）運用サービスを連携する「インフラアウトソーシングサービス」を提供します。
- ・顧客からの要望が増えている「ニアショア体制」を強化するとともに、加速する顧客ビジネスのグローバル化に対応した「オフショア体制」を確立します。

※ニアショアとは、オフショアが海外でシステム開発や保守を行うことに対し、国内の遠隔地でシステム開発や保守を行うことを指します。首都圏等と比較して地方はコストパフォーマンスの面から優秀な人材を確保し易く、かつ物価が安いことなどにより、低価格でのサービスの提供が可能となります。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、製造経費の中では労務費と外注費、販売費及び一般管理費の中では人件費、地代家賃等であります。

運転資金及び設備投資資金につきましては、自己資金で調達することを基本方針としております。当社グループは健全な財政状態にあり、キャッシュ・フローにおいても特段の支障をきたしていないことから、当社グループの成長を維持するために将来必要な運転資金及び設備投資資金を調達することが可能であると考えております。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	9,560,000
計	9,560,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,487,768	5,487,768	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	5,487,768	5,487,768	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	—	5,487,768	—	491,031	—	492,898

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

(平成25年3月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 317,900	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,085,500	50,855	—
単元未満株式	普通株式 84,368	—	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	5,487,768	—	—
総株主の議決権	—	50,855	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が100株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

② 【自己株式等】

(平成25年3月31日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社クエスト	東京都港区芝浦一丁目12番3号	317,900	—	317,900	5.79
計	—	317,900	—	317,900	5.79

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）および第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,144,920	2,116,349
売掛金	856,779	763,601
有価証券	199,675	100,000
仕掛品	24,410	51,968
その他	203,511	183,008
流動資産合計	3,429,297	3,214,927
固定資産		
有形固定資産		
建物	132,679	133,595
減価償却累計額	△58,306	△59,209
建物（純額）	74,372	74,385
土地	69,864	69,864
その他	109,627	113,317
減価償却累計額	△88,060	△90,229
その他（純額）	21,567	23,088
有形固定資産合計	165,804	167,339
無形固定資産		
のれん	10,200	7,650
その他	83,033	81,630
無形固定資産合計	93,233	89,280
投資その他の資産		
投資有価証券	613,164	754,323
その他	207,579	197,417
投資その他の資産合計	820,744	951,740
固定資産合計	1,079,782	1,208,360
資産合計	4,509,080	4,423,288

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	126,334	114,568
未払法人税等	5,894	228
賞与引当金	229,752	132,120
プロジェクト損失引当金	639	318
その他	272,926	412,587
流動負債合計	635,546	659,824
固定負債		
退職給付引当金	217,832	226,166
役員退職慰労引当金	16,675	17,475
その他	461	461
固定負債合計	234,968	244,103
負債合計	870,514	903,927
純資産の部		
株主資本		
資本金	491,031	491,031
資本剰余金	492,898	492,898
利益剰余金	2,852,037	2,707,656
自己株式	△221,827	△221,864
株主資本合計	3,614,139	3,469,721
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	23,527	47,752
為替換算調整勘定	899	1,885
その他の包括利益累計額合計	24,426	49,638
純資産合計	3,638,565	3,519,360
負債純資産合計	4,509,080	4,423,288

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
売上高	1,626,776	1,622,325
売上原価	1,416,540	1,412,632
売上総利益	210,236	209,692
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	53,531	67,534
役員報酬	43,037	30,940
賞与引当金繰入額	11,110	11,490
退職給付費用	3,613	4,147
役員退職慰労引当金繰入額	466	800
その他	85,886	86,768
販売費及び一般管理費合計	197,646	201,681
営業利益	12,589	8,011
営業外収益		
受取利息	4,899	2,224
受取配当金	139	4,668
その他	676	1,036
営業外収益合計	5,716	7,928
営業外費用		
為替差損	42	272
その他	9	10
営業外費用合計	52	283
経常利益	18,253	15,656
税金等調整前四半期純利益	18,253	15,656
法人税、住民税及び事業税	680	574
法人税等調整額	2,607	4,367
法人税等合計	3,288	4,941
少数株主損益調整前四半期純利益	14,964	10,714
四半期純利益	14,964	10,714

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	14,964	10,714
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△585	24,225
為替換算調整勘定	745	986
その他の包括利益合計	159	25,211
四半期包括利益	15,124	35,926
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,124	35,926

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
減価償却費	15,497千円	14,632千円
のれんの償却額	2,550	2,550

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	155,396	30	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金

II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月21日 定時株主総会	普通株式	155,095	30	平成25年3月31日	平成25年6月24日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	システム 開発	インフラ サービス	計		
売上高					
外部顧客への売上高	823,341	701,974	1,525,315	101,460	1,626,776
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	823,341	701,974	1,525,315	101,460	1,626,776
セグメント利益	71,198	114,193	185,392	14,094	199,486

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、受託計算サービス事業、データエントリー事業及び商品販売事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	185,392
「その他」の区分の利益	14,094
セグメント間取引消去	900
全社費用(注)	△187,797
四半期連結損益計算書の営業利益	12,589

(注) 全社費用は、親会社である当社の人事・経理部門等に関する費用であります。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他 (注1)	合計
	システム 開発	インフラ サービス	計		
売上高					
外部顧客への売上高	779,661	745,527	1,525,189	97,136	1,622,325
セグメント間の内部売上高 又は振替高（注2）	—	—	—	1,193	1,193
計	779,661	745,527	1,525,189	98,329	1,623,518
セグメント利益	80,195	113,878	194,073	5,386	199,460

（注1）「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、受託計算サービス事業、データエントリー事業及び商品販売事業等を含んでおります。

（注2）セグメント間の取引価格は市場価格、総原価を勘案して価格交渉の上、決定しています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	194,073
「その他」の区分の利益	5,386
セグメント間取引消去	900
全社費用（注）	△192,349
四半期連結損益計算書の営業利益	8,011

（注）全社費用は、親会社である当社の人事・経理部門等に関する費用であります。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	2円89銭	2円7銭
（算定上の基礎）		
四半期純利益金額（千円）	14,964	10,714
普通株主に帰属しない金額（千円）	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額（千円）	14,964	10,714
普通株式の期中平均株式数（千株）	5,179	5,169

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年8月8日

株式会社クエスト

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 久保伸介 印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 坂東正裕 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社クエストの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社クエスト及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。